

熊谷版 社会保障通信

第5号 松本

～明日へ架ける橋～

2019.11.18

地域連携・医療福祉相談室 発行

第2回 地域連携懇談会を開催！ 23医療機関・事業所34名の参加！



11月15日（金）、昨年度に引き続き第2回地域連携懇談会を「デイケアくまここ」で開催しました。今回は、医師会や歯科医師会の会議とも重なってしまった為昨年を下回る参加者でしたが、それでも23医療機関・事業所から34名の方々に参加してもらいました。また、今回は熊谷市長寿いきがい課と熊谷保健所の行政職員の方々の参加もありました。



司会奮闘！宮岡副院長！

冒頭で宮岡副院長より歓迎の挨拶と台風19号の被害の甚大さと当院でのエピソードも交えて話し、災害対策の重要性を参加者の方々へ呼びかけられました。

来賓挨拶として、長寿いきがい課の神山課長より当院が在宅復帰支援病院として、県内唯一の民間病院として訪問看護の教育ステーションを担っている事、熊谷市介護予防事業の通いの場へのセラピスト派遣や、小規模多機能・通所リハビリと医療が一体的にサービス提供していることへの評価を頂きました。熊谷市で急速に進行している超高齢社会の課題にもふれ、地域連携と他職種による協働がきわめて重要であると提起

され、当院が実践している地域包括ケアへの信頼をふまえて、この場での学びを深めて連携強化に努めていきたいと話していただきました。



熊谷市長寿いきがい課
神山課長の来賓挨拶！



懇談会では小堀院長より「訪問診療を通して感じる地域連携の重要性」のテーマで当院の訪問診療の実践を紹介しました。当院の概要と超高齢社会の現状もわかりやすく話し、2030年には「看取り難

民」40万人になる予測もあり、地域包括ケアの理念が「絵に描いた餅」にならないように、当院が実践している「在宅看取り」の必要性がますます重要になってくる事を参加者と共有する事ができました。



講演する小堀院長！

4事例を紹介しながら、他院からの急な依頼でも臨機応変かつスピーディーに訪問診療へつなげている事や、医科歯科連携や薬局との連携の重要性、そして熊谷地域では唯一小児の看取りを実践している事等



質問する中村先生！

を紹介し、当院の訪問診療の特徴を余すことなく参加者に伝えられました。参加者の方々も熱心にメモをとられている姿が見受けられ、質疑でも中村歯科医院・中村院長先生、埼玉県立循環器呼吸器病センター緩和ケア内科・黒澤先生、在宅支援くにたま薬局・國玉先生より感想、質問もあり、訪問診療の実践をさらに深めることができました。

その後、地域連携・医療福祉相談室の紹介もを行い、スタッフ全員が前に立ち、今年度より3名体制で「待たせない」訪問診療・入院相談の窓口をPRしました。



連携のPR！相談室メンバーと高橋看護師



質問する黒澤先生！

後半の懇親会では、顔の見える連携が深まりました！！

その後の懇親会では職種ごとに歓談が進み、日頃の感謝を皆様にお伝えしながら情報交換も行い有意義な時間を過ごすことができました。地域から求められる期待に応えられるように職員一同気持ちを新たにすることができました。

